

学びのてびき



◎中学2年生の勉強で大切なこと

中学2年生の勉強を理解するには、中学1年生の学習の基礎がしっかりと理解されていることが大切です。特に英語や数学については、1年生で勉強した内容と関連する学習内容が多く、1年生の基本が理解できていないと、2年生の授業をしっかりと聞いてもなかなか理解するのが難しくなっていきます。

つまり、1年生で学習した基礎的・基本的な内容をつかめているかどうか、2年生の学校での授業の理解度に大きく影響を及ぼすことになります。2年生になると授業の進み方も随分と早くなり、勉強する内容も難しく感じてしまいます。まずは、これまでに学習した内容を確認しながら授業を聞いていくという勉強方法を身に付けることが、勉強が楽になる一番のコツとなるはずです。

◎各教科での勉強のポイント

国語

国語は、前の学年で学習したことを土台にして、少しずつ難しいことやレベルの高いことに挑戦する教科です。2年生では、これまでの知識をもとに、それらを使って「自分の考えや意見を明確にもつこと」を意識し、授業に臨みましょう。これまで身に付けた文法や語句、表現技法などの知識を復習しながら、少しずつ活用していくように常に心がけることがポイントです。自分の考えを明確にもち、それらを豊かに表現できるように、文章を書いたり話し合ったり、読書をしたりしていきましょう。



社会

2年生の地理の学習では、主に日本の地理について細かく勉強することになります。それぞれの地域の地域性や一般的特殊性を、様々な資料から読み取っていきましょう。資料を集めたり、比較したりすることで、学習を深めていくことができます。歴史では、近世以降の日本と世界について学習していきます。歴史的事象の因果関係をしっかりと押さえながら、各時代の特徴をつかむためにも、「いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どうした」を整理しながら、学習を進めていきましょう。また、世界の歴史を平行して学び、世界で起こった事象や事件などが、どのように日本の歴史に影響を与えているのかをつかみながら学習を進めていきましょう。

数学

2年生では、文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、不確定な事象の起こりやすさについて考察する力などを養う必要があります。そのために、計算問題をたくさん解いて、基本となる計算処理の仕方を確実に理解すること、図や表を使って数学的に表現・処理できるようにすることが大切です。授業で自分の考えや意見をしっかりともち、仲間との交流の中から思考を深めていけるようにしましょう。

理科

2年生の学習では、1年生の時よりも、より小さな視点で現象を見て、その現象を理解したり説明したりします。1年生の時に学んだ基礎基本の語句や実験器具の使い方を土台に、新たなことを学びます。その日学習したことを、しっかりと復習して身に付けていきましょう。また、1年生以上に公式やデータを用いた計算が増えます。確実に解けるようになるまで繰り返し練習してマスターしましょう。力を付けるためにはどれだけ自ら考え表現したかが重要です。授業の中で積極的に実験や観察に参加し、自ら進んで考え、表現していきましょう。



外国語（英語）

2年生では、身に付けた文法や語句、構文などを活用していく場面が増えます。また、1年生で学習した内容を発展させる文法もありますので、1年生で学習したことをしっかりと復習して、身に付けておきましょう。1年生の内容と比較すると、文法や語句が格段に増えます。一つ一つの授業で学習したことを家庭学習で復習する習慣を付けていきましょう。英語を習得するためには、発音練習がポイントです。音声で単語を身に付け、長い文章を書けるように練習していきましょう。

◎南中学びスタイル 対話活動『5つのトーク』

5つのトークの仕方

1 ツイート(つぶやき)について

(1) 教材との出会い・対話
(つぶやき→唇を動かす)
「ツイートしましょう。」
○自分が考えを小さな声でつぶやく。
○ちょっとしたことでも口ずさむだけでもよい。

(2) 自己との対話(ふり回り)
「ふりまわりを、ツイートしましょう。」
・自己評価を行う。
○授業の終わりに、自己のふりまわりを行い、自分の考えを深めたり広げたりする。



5つのトークの仕方

1 ツイート(つぶやき)の例

つぶやき
・学習のスタートを賑げ合図
・自分の考えを他者に伝える準備



～4と～3では、どちらの方が大きいですか？

5つのトークの仕方

2 ペアトークについて

仲間との対話
「ペアトークをしましょう」
正対して、ペアで考えを伝え合う。

・聞き手は「聞いているサイン」をする。
うなずく、ほほえむ、あいづち「わかる」「なるほど」
首をかしげる、顔をゆがめる「もう一回言って」
→反応されることで話し手は話しやすくなります。

・話し手は、相手の目(反応)を見る。
○相手の思いや考えをしっかりと聴き、自分の思いや考えを深める。



5つのトークの仕方

2 ペアトークの形態



イスごと90°回転させ、向かい合う。

5つのトークの仕方

3 グループトークについて

仲間との対話
「グループトークをしましょう」
中央を向いて 向かい合って

・全員が話そうにする。
→聞き手は「聞いているサイン」を忘れずに。
○自分の思いや考えを4～5人に伝える。
○自分と他者の考えの、共通点や相違点を意識して伝え合い、自分の考えをより深める。



5つのトークの仕方

3 グループトークの形態



イスごと180°回転させ、向かい合う。
机はそのまま 身体だけ向かい合う。

5つのトークの仕方

4 グループディスカッションについて

仲間との対話
・4～5人で机を班にして討議・討論をする。
・代表者が司会進行をする。
→司会は、全員が参加していることや、話の展開の仕方に気を配る。
・班で役割を決めてよい。
①代表者(司会) ②発表係 ③記録係 ④時間(計時)係 など
○共通点や相違点を意識して伝え合い、仲間の考えのよさを見つながら、考えをねり上げる。



5つのトークの仕方

4 グループディスカッションの形態



グループで考えをねり上げ、結論を出す。

5つのトークの仕方

5 全体交流について

仲間との対話
「全体交流をしましょう」
・発表者は、クラスの中央を向く。
・聞き手は話し手にへそを向け、「聞いているサイン」をする。
・一番遠い人にはっきり聞こえる声で発表する。
○学級全体での意見や考えを交流する。



5つのトークの仕方

ツイート(つぶやき)

(2) 自己との対話(ふり回り)
「ふりまわりを、ツイートしましょう。」
○授業の終わりに、自己のふりまわりを行い、自分の考えを深化・拡充させる。
→ふりまわりを書く



仲間と学び合うことで、自分の考えが変化したり深まったりします。対話活動に積極的に参加し、最後は自分で授業をふり返りましょう。自分の言葉で「分かった・できた」を実感することが、授業では大切です。



◎家庭学習はなぜ大切なのだろうか

人間の脳は、忘れるようにできています。人は忘れないと生きていけません。ある意味、忘れるから人生は楽しいのです。しかし、学習となると「忘れるから楽しくない」となりがちです。ですから、学んだことを忘れないように定着させるために、地道に何度も学習をすることが重要です。こうすることで、学習は楽しいと思えるようになります。そして、学力向上のプロセスのようにどんどん学力がのびていきます。

そして、家庭学習をするからこそ身に付く力があります。

1 家庭学習の内容は？



レベル1 学校の宿題
レベル2 授業の予習・復習
レベル3 速く正確にできるまでドリル学習
レベル3 調べ学習(興味・関心のあることを追求する)

2 家庭学習時間のめやすは？

中学校1年生 1時間30分以上
中学校2年生 2時間以上
中学校3年生 3時間以上

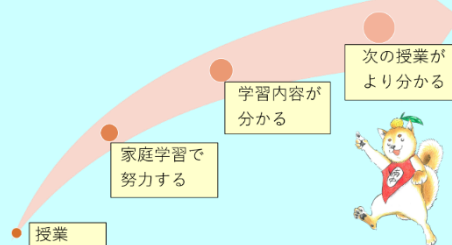


3 家庭学習をする習慣を身に付けるには？

- 

①授業で使った学習用具を家庭に持ち帰る。
②ほぼ決まった時間に家庭学習をする。
③部活のある日、塾のある日、休日など基本的な計画をたてる。

学力向上のプロセス



まずは、宿題や教科で出された課題に取り組みましょう。次に、予習・復習で基礎をしっかりと定着させます。さらに、興味・関心のあることを追求するともっと理解が深まっていきます。



内容や方法によって、時間は変わってきます。集中して取り組める、自分にあった時間を決めて家庭学習に取り組みましょう。



◎自学ノートをやってみよう



- ☆ 自学ノートは、じっくり時間をかけて丁寧に取り組みます。
- ☆ 文字の間隔や行をあけないようにびっしりと書き込みます。
- ☆ 毎日1ページ以上行い、次の日の朝の会で必ず提出します。
- ☆ 家では腰骨を立てて座り、テレビや携帯電話のない場所で学習します。
- ☆ 授業で宿題や提出物がある時は、当然それを行い、さらに自学ノートも行います。
- ☆ 漢字や単語の練習は書きっぱなしにせず、必ずテストをして覚えたかどうか確かめます。
- ☆ 教科書やワークや問題集の問題を解いたら必ず答え合わせをして、間違った問題は、なぜ間違っただのかを確認して、必ずやり直しをします。

10. 文学史の物語

「源氏物語」は日本最初の長篇小説。作者は紫式部。平安時代中期に成立した。物語の中心は、皇族の生活を描かれている。主人公は、光源氏の一生が描かれている。平安時代中期から鎌倉時代にかけての物語。

1185年 源義経が壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした。平氏滅亡後、頼朝と義経が対立。義経を倒すという名目のもと、守護を、荘園や公領ごとに地頭を置くことを朝廷に認めさせ、鎌倉幕府を開いた。源頼朝は朝廷から武士の総大将として征夷大将軍に任命された。

1333年 鎌倉時代

鎌倉時代の政治は頼朝が中心。

色ペンを使って分かりやすく。

図があると、
テストの時に見直しやすい。

生物の図

日当たりが悪い場所では生活... ドクダミ、ダンゴムシなど

めい、柱頭、やく、めい、胚珠 → 種子

子房、受粉、果実

おびの先端のやくには「花米粉」が入っている。

・花弁... 花弁がくっついて1つの「合弁花類」と花弁が離れているものを「離弁花類」がある。

・根のつくり

道管... 根で吸収した水や肥料が通る

師管... 葉でつくられた養分が通る

根も... 根の先端付近にある綿毛のような根毛の利点... 土と接する面積が大きくなり、水や肥料が重要! 土を効率よく吸収できる

・葉のつくり

道管

師管

根管束... 道管と師管が集まって束になったもの

葉のつくり

表皮

道管

師管

気孔... 三日月形の孔

細胞で囲まれた

・葉のつき方

日光を受けられるように、たがいに重なり合っているようにしている。

→ どの葉にも日光が当たり、光合成

上から見た図

角錐、円錐の体積の公式

底面積をS、高さをh、体積をVとすると...

$V = \frac{1}{3} S h$ となる

底面積の半径をr、高さをhとすると...

$V = \frac{1}{3} \pi r^2 h$ となる

次の立体の体積を求めなさい!

① 底面の1辺が6cm、高さが4cmの四角錐の体積を求めなさい

$(6 \times 6) \times 4 \times \frac{1}{3} = 108$

② 底面の半径が3cm、高さが4cmの円錐の体積を求めなさい

公式や考え方のポイントは目立たせる。

重要語句等は色を付けて目立たせます。

覚えやすいコツや、正しく覚えるためのポイントも書いておこう。

◎週末課題について

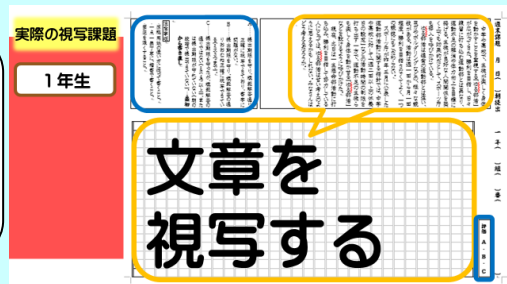
宇美南中学校では、週末課題として「視写」に取り組んでいます。視写とは、新聞のコラムや投書を書き写したり、それについて感想や作文を書いたりする活動です。

この視写課題を通して、速く丁寧に「読み」、積極的に「書く」ということができるようになります。また、感想や意見作文を書くことで、自分の考えや意見をもち、根拠をもって説明することができる力を育てていきます。

視写の効果とは…



- ・ 集中力が身に付く。
 - ・ 字が上手になる。
 - ・ 文章表現の技法を覚える。
 - ・ 表記のルールを覚える。
 - ・ 暗誦や記憶に役立つ。
- 文部科学省HP 「視写の効果」より



その他にも、こんないいことが…。

☆最新のニュースを知る。☆新しい漢字や語句を覚える。☆書くことへの抵抗感が減少する。
☆考える力が付き、自分の言葉で自信をもって書けるようになる。

◎テストはどうやって勉強したらいいの

中学校には、授業で学習したことをどれだけ理解したか確かめるための「定期考査(テスト)」があります。

学習成績にも大きく関わるテストです。そのため、学習に集中する時間を生み出せるよう、テスト前には部活動を中止する期間をとります。さらに、家庭学習強化週間として、原田小・南中校区の各家庭で、テレビ、スマホ、パソコン等に触れる時間を制限して学習に集中する「ノーメディアの取組」を行っています。日頃は、自学ノートでこつこつと学習を積み重ね、この時期には一つの章や單元ごとに復習して全体をつかむ学習をします。ここでは、「定期考査(テスト)」の効果的な勉強方法について紹介したいと思います。



1 計画 テストに向けた学習計画を立てる。

定期考査では、中間考査(5教科)を1日で、期末考査(9教科)を2日間で一斉に行います。それぞれの教科で学習した数ヶ月分の内容が試験範囲となり、教科数も内容も多くなります。そのため、どの教材を使って、どの内容をいつするのか、計画を立てましょう。試験範囲の復習をしないまま、テストを受けることがないようにすることが必要です。南中では、テストの2週間前に計画を立て、テスト勉強を始めます。

2 実行 自分が立てた学習計画を実行する。

計画を立てたら、次はそれを実行します。計画をうまく実行していくためには、自分が決めた時間に机に向かうことが大切です。必要に応じて計画を見直したり、修正したりする柔軟性も大切ですが、まずは、「計画をやりぬく努力と強い意志」がよい結果につながります。学校の休み時間や、家庭での空いている時間の使い方を考えましょう。



3 復習 同じことを何度も言う、書く、覚える。

ドイツの心理学者エビングハウスが発表した忘却曲線によると、記憶した内容は20分後には42%、1時間後には56%、1日後には74%が忘れられてしまうそうです。つまり忘れかけたところで同じことを繰り返し勉強すれば、記憶できるわけです。

テスト勉強は、「記憶すること」です。一度覚えても忘れるのですから、「復習」がなければ記憶はできません。授業で習った日に家庭に帰って復習、さらに同じことを寝る前に復習…など繰り返します。そして前夜の勉強内容を朝、起きて復習…など、ひたすら繰り返し復習して記憶に残しましょう。余力のある人は「予習」も行くと、なおよいです。



◎通知表の評価や評定について

1 観点別評価と評定について

(1) 観点別評価

各教科とも、学力を3つの観点で捉え、指導の単位ごとに観点別評価の基準を設定します。この基準は文部科学省が定めた『学習指導要領』に基づいて作成されます。評価・評定の客観性・信頼性を高めるために、おおよそ以下のようにその達成率によって3段階で評価されます。

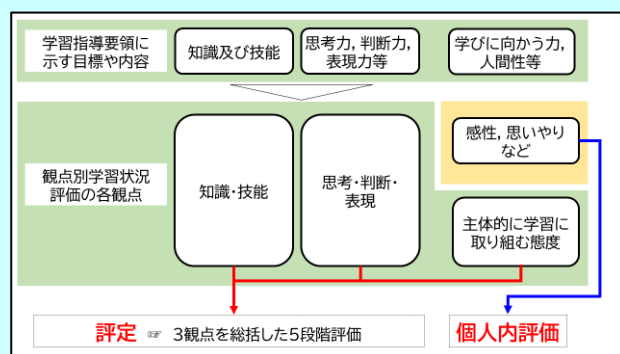
達成率	80%以上	十分満足できる	A
	50%以上80%未満	おおむね満足できる	B
	50%未満	努力を要する	C



また、各教科のそれぞれの観点の内容は、『知識・技能』、『思考・判断・表現』、『主体的に学びに向かう態度』の3つに分かれています。

ア 『知識・技能』の評価

「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行います。さらに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価されます。



イ 『思考・判断・表現』の評価

「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価されます。

ウ 『主体的に学びに向かう態度』の評価

知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価されます。

そのため、「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らして、

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
 - ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面
- という二つの側面から評価されます。

したがって、定期テストの得点だけではなく、ノートの内容や提出物、授業中に制作した作品の出来栄や実技テスト、目標に向かって見通しをもち、粘り強く学習しようとする態度などを各観点別に評価します。特に、宇美南中学校では、授業中に小グループで学び合い（自分の考えを述べる、人の考えを一生懸命に聴く等）に意欲的に取り組んでいるかということも評価されます。

(2) 評定

宇美南中学校では、各教科3つの観点別の評価をもとにして、概ね以下に示す表のように評定を算出します。

観点別評価	評定
AAA	5
AAB	4
ABB ABC BBB BBC	3
BCC	2
CCC	1



(3) 5段階評定について

各観点の平均達成度をもとに、おおむね以下のように5段階で評価されます。



平均達成率	90%以上	特に高い程度	5
	80%以上90%未満	十分満足できる	4
	50%以上80%未満	おおむね満足できる	3
	20%以上50%未満	努力を要する	2
	20%未満	一層努力を要する	1

3 テストの実施時期（予定）



1 学期	1, 2, 3 年	学力分析テスト	4 月下旬
	3 年	全国学力・学習状況調査 . .	5 月下旬
	1, 2, 3 年	期末考査	6 月中旬
	1, 2 年	県学力テスト	6 月中旬
	1, 2, 3 年	夏休み課題テスト	8 月下旬
2 学期	1, 2, 3 年	(夏休み明けがすぐテストです！)	
	1, 2, 3 年	中間考査	9 月下旬
	3 年	学力分析テスト	9 月下旬
	1, 2, 3 年	学力分析テスト	10 月下旬
	1, 2, 3 年	期末考査	11 月中旬
3 学期	1, 2 年	学力分析テスト	2 月上旬
	1, 2, 3 年	期末考査	2 月中旬



◎各教科の目標（2 学年）

教科	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
(地理的分野)	我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間の相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
(歴史的分野)	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。
数学	文字を用いた式と連立二元一次方程式、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

教科	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
理科（第1分野）	物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察、実験などを行い、身近な物理現象、電流とその利用、運動とエネルギー、身の回りの物質、化学変化と原子・分子、化学変化とイオンなどについて理解するとともに、科学技術の発展と人間生活との関わりについて認識を深めるようにする。また、それらを科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	物質やエネルギーに関する事物・現象に関わり、それらの中に問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し表現するなど、科学的に探究する活動を通して、規則性を見いだしたり課題を解決したりする力を養う。	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。
理科（第2分野）	生命や地球に関する事物・現象についての観察、実験などを行い、生物の体のつくりと働き、生命の連続性、大地の成り立ちと変化、気象とその変化、地球と宇宙などについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	生命や地球に関する事物・現象に関わり、それらの中に問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し表現するなど、科学的に探究する活動を通して、多様性に気付くとともに規則性を見いだしたり課題を解決したりする力を養う。	生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。
音楽科	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。
美術科	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。
（体育分野） 保健体育科	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。
（保健分野） 保健体育科	個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
（技術・家庭分野） 技術・家庭科	生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
（技術・家庭分野） 技術・家庭科	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

教科	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
外国語科	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

◎学ぶ君たちへのメッセージ

人生は勉強の連続です。「一生勉強が続くなんて嫌だ〜…」と思う人もいるかもしれませんが、しかし、勉強はただ机について教科書を見て、先生の話聞くだけではありません。仕事のやり方を学んだり料理の方法を学んだりすることも、全て勉強です。

中学校で勉強することは、将来の生活に直接役に立つこともありますが、「継続して勉強した経験」が役立つことが多いのです。各教科をどのように勉強すれば、楽しく、分かりやすく学習できるのかを、この「学びのてびき」で確認してください。勉強は、継続することが大切です。勉強することが嫌になったり、あきらめなくなったりした時は、このてびきを読んで、勉強のやり方を変えたり工夫したりしてください。

また、教科の先生や担任の先生にも勉強方法をどんどん相談しましょう。分からないことをそのままにしないことが大切です。学校生活のほとんどをしめるのが勉強です。どうせしなければならないのなら、楽しく充実したものにしていきましょう。

さらに、家庭生活を規則正しく、食事を確実にとり、健康に留意して、しっかり運動をすることも勉強するためには重要なことです。宇美南中学校の生徒として、充実した生活を送ることを期待しています。

◎保護者のみなさまへ

子どもたちが学習したことを定着させ、学力を向上させるためには、家庭学習と家庭生活の充実が不可欠です。そのために、保護者のみなさまのご協力をお願いします。具体的には、

1 自学ノートを毎日点検してください。

自学ノートは毎日1ページ以上行い、翌日に提出するように指導いたします。ご家庭では、毎日自学ノートに取り組んでいることをご確認ください。また、内容が充実したものになるよう、ご家庭でもご指導ください。困り感等、感じられましたら、担任までご相談ください。

2 規則的に生活するようにご指導ください。

起床する時間、勉強をする時間、食事をする時間、自由時間、就寝する時間などを毎日ほぼ同じ時刻、同じ時間にしてください。

3 食事を十分にとらせてください。

時間に余裕をもって、噛む回数が多くなるような食事ができるとよいと思います。個人差はありますが、中学生にとって十分な量と栄養バランスのとれた食事をお願いします。

4 あいさつや会話を多くしてください。

朝や就寝のあいさつや来客へのあいさつなど、社会性の勉強や正しい他者認識のために習慣づけさせてください。また、学校生活や将来のことなどできるだけ子どもに関心をもち、会話を絶やさないようにしてほしいと思います。ほめたり、励ましたり、認めたりする会話を多くもち、子どもが保護者から関心をもたれていることを意識させるようにしてください。時には、家族で自然体験や絵画鑑賞など多くの体験を一緒にしてほしいと思います。

5 学習環境を整えてください。

集中力は環境によって育ちます。学習時、集中の妨げになるようなものは、排除してください。例えば、雑誌や漫画、テレビや携帯電話、ゲーム機などは、学習する環境とは別の場所に置いてください。子どもが落ち着くように、清潔で整理整頓がなされた環境づくりをお願いします。

